



自動車リユース・リビルト部品
普及に向けた包括的ビジネスモデル

株式会社JARA
一般社団法人JARAグループ

本日のご説明内容

1. (株)JARA・(一社)JARAグループについて
2. 自動車リユース・リビルト部品の流通モデルと課題
3. 課題解決に向けた取組
4. 本取組の優位性・環境貢献
5. 将来に向けて

本日のご説明内容

1. (株)JARA・(一社)JARAグループについて
2. 自動車リユース・リビルト部品の流通モデルと課題
3. 課題解決に向けた取組
4. 本取組の優位性・環境貢献
5. 将来に向けて

(株)JARA・(一社)JARAグループについて

株式会社JARA

- 設立：2003年
- 主要株主：豊田通商
- 代表：矢島 健一郎
- 事業内容：
 - ✓ 自動車リユース部品販売管理システムの開発/販売/運用
 - ✓ 使用済自動車の調達/販売
 - ✓ リユース部品に関する調査/コンサルティング

一般社団法人JARAグループ

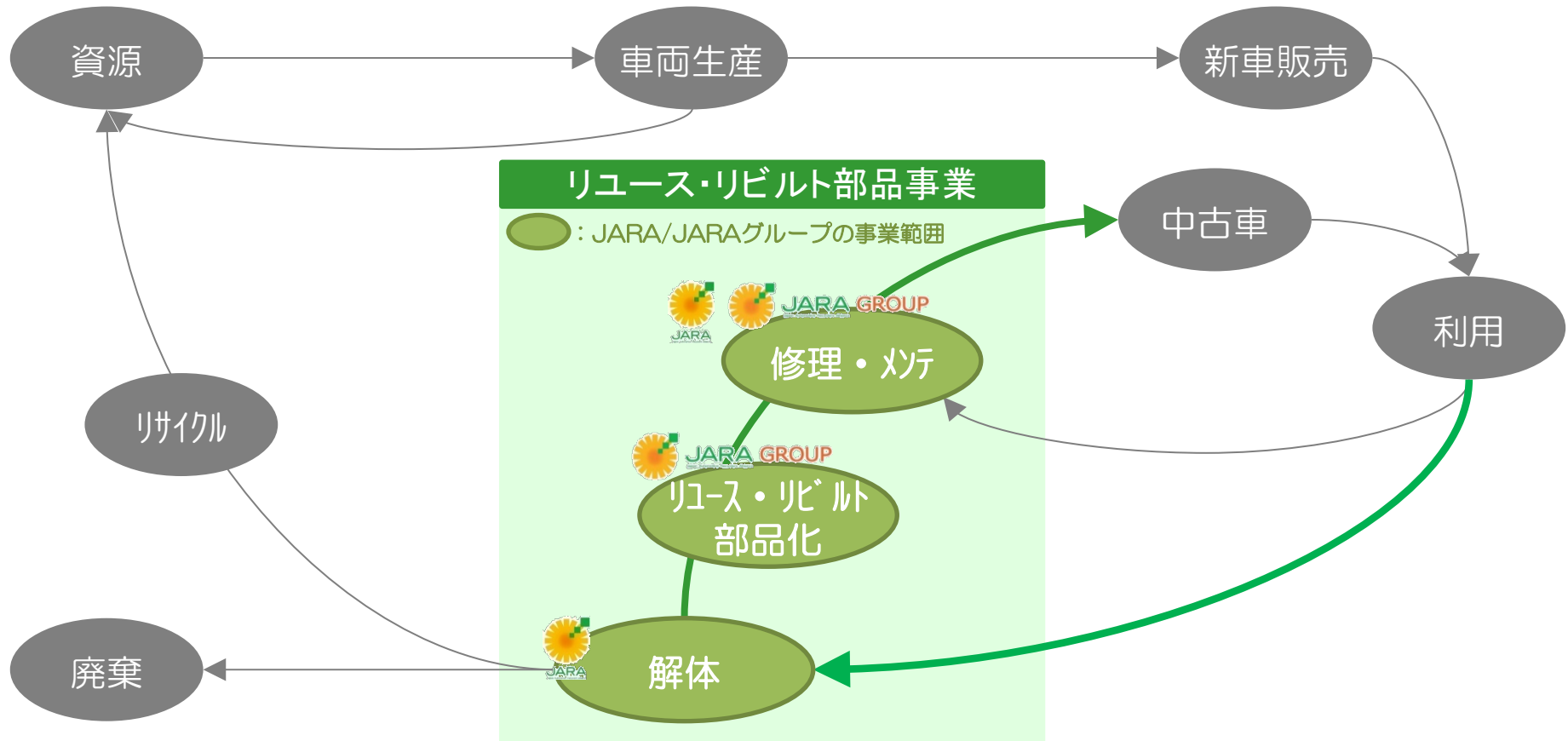
- 設立：2003年
- 理事長：川島 準一郎
- 会員数：59社（全社 JARAのシステムユーザー）
- 事業内容：
 - ✓ 新人向け基礎研修や次世代車両に関する研修を含む各種人材育成
 - ✓ リユース/リビルト部品に関する認知・広報活動
 - ✓ 災害協力 など

本日のご説明内容

1. (株)JARA・(一社)JARAグループについて
2. 自動車リユース・リビルト部品の流通モデルと課題
3. 課題解決に向けた取組
4. 本取組の優位性・環境貢献
5. 将来に向けて

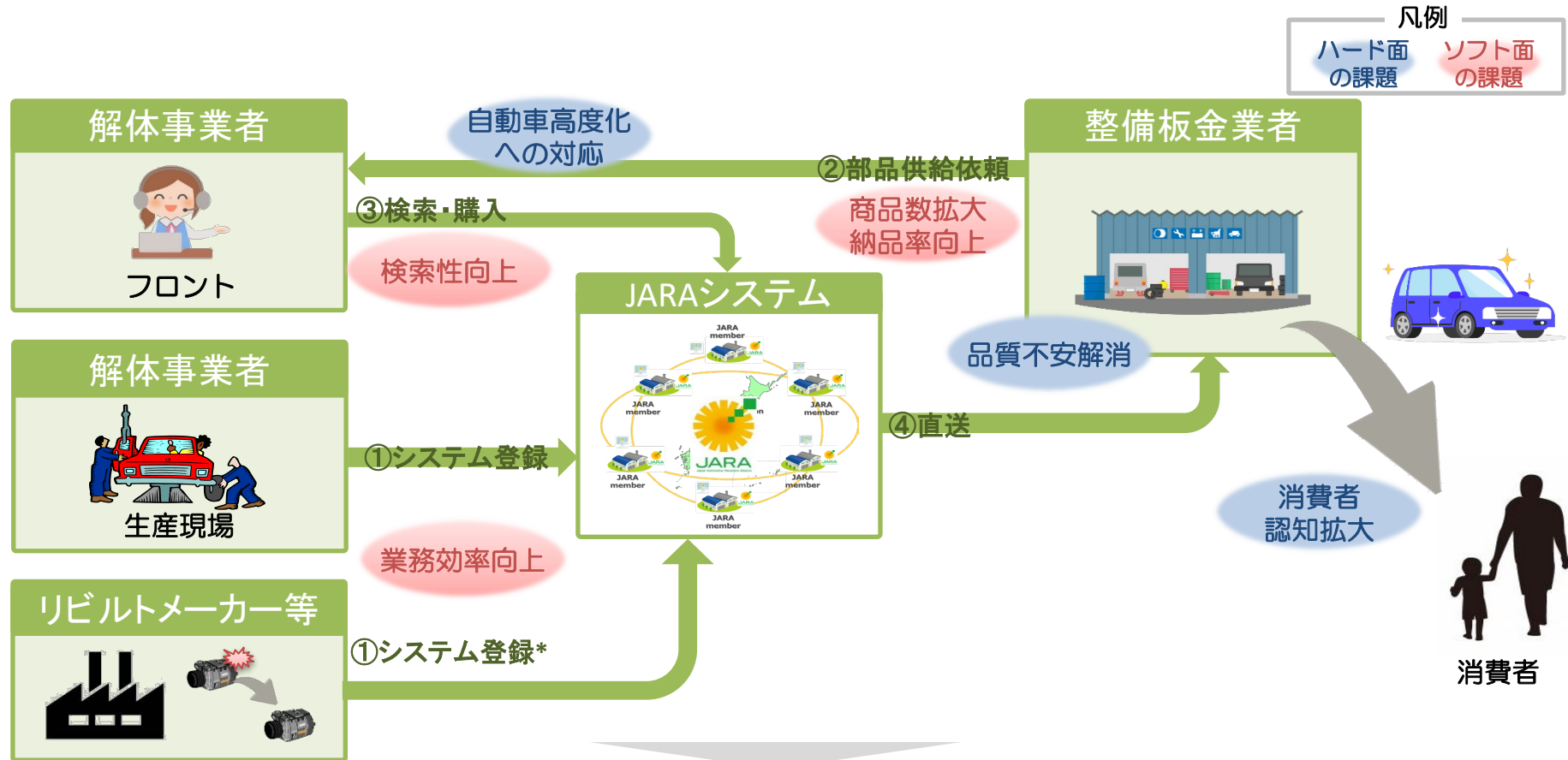
自動車CEモデルにおける リユース・リビルト部品事業の位置づけ

自動車リユース部品を最大限中古車のメンテナンスに活用することで、
使用済自動車の残存価値を最大限活用し、CE/CNの実現を目指す



リユース部品・リビルト部品事業における流通モデル及び課題

解体事業者が同業のネットワーク及びリビルトメーカーから部品を調達し、自社顧客である整備钣金業へ販売する流通モデルで、ハード・ソフト双方に課題



量と質の確保をバリューチェーン全体・ハード/ソフト両面で取り組む必要

本日のご説明内容

1. (株)JARA・(一社)JARAグループについて
2. 自動車リユース・リビルト部品の流通モデルと課題
3. 課題解決に向けた取組
4. 本取組の優位性・環境貢献
5. 将来に向けて

JARA・JARAグループの活動まとめ

活動概要	対応する課題 (P.9参照)	成果
#1 人材育成および品質標準化活動	・ 会員間相互研鑽や経営者からフロントまで、職種別教育活動の実践 ・ 部品別の商品定義等の設定	・ 説明能力向上などを通じた自動車高度化への対応及び品質不安の解消 ・ 商品定義設定を含む品質標準化による納品率の向上
#2 システム開発/改善活動	・ 業務効率化システムATRSの開発/提供 ・ システムユーザーによる改善活動の推進	・ ユーザー本位の操作性の高いシステムを開発 ・ ユーザー350社で導入/全国約60%の浸透率実現 ※日本自動車リサイクル協議会加入者から算出
#3 事業環境整備	・ 瑕疵保証制度/会員向け総合補償制度の導入 ・ 普及啓発動画などによる認知拡大活動 ・ ELV調達/供給	・ 安心して取引可能な環境を整備し、品質不安を解消 ・ 損害保険会社などで活用 ・ 車両供給によるリユース部品の商品数拡大

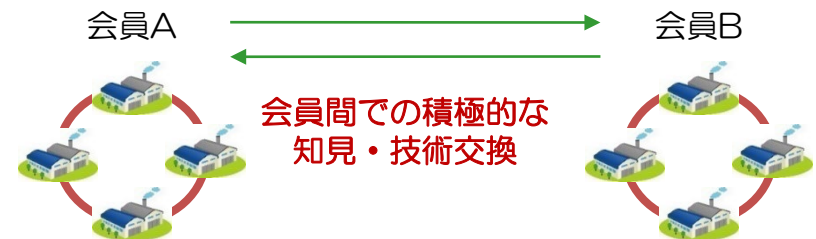
#1-1 品質標準化活動

三層教育・会員間相互研鑽

電気自動車などの最新自動車に関する知見・修理技術、品質管理手法などの習得促進に向けた、三層教育及び会員間相互研鑽の繰り返し

三層教育

会員間相互研鑽



- 対象 -

- ・ 経営者/生産実務者/フロント(販売窓口スタッフ)

- 主な研修内容 -

- ・ 経営力・マーケティング力向上研修
- ・ 顧客に対する提案・説明能力向上研修
- ・ 部品の修理技術・知識に関する研修

- 対象 -

- ・ JARAグループ会員

- 主な研修内容 -

- ・ 基礎研修(新人向け合同研修)
- ・ 実務者例会
- ・ 次世代車両に関する研修会

#1-2 品質標準化活動

部品の商品定義・運用ルールの制定



会員間の認識齟齬防止に向けた商品定義設定を含む、品質標準化活動を実施(以下例)

- 各部品の商品定義設定
- 商品別の品質保証責任など運用ルール設定
- クレーム発生時の費用負担の考え方などの対応方法規定

■商品定義例：エンジン

通常保証 6ヵ月又は10,000km

ショートエンジンにキャブレター、インジェクター、噴射ポンプ、バキュームポンプ、イグニッション コイル(エンジンに付くタイプ)、タイミングカバー、ウォーターポンプ、インテークマニホールド、エキゾーストマニホールド、クランクプーリー、ディストリビューター、フライホイール、リングギア(AT車)、エンジン側に固定されているセンサー等の補器類が付いている状態。

(原則的にパワステベーンポンプ、スターター、オルタネーター、A/Cコンプレッサー等は、外されている。エンジンマウント付属しない。)

(ターボチャージャー、スーパーチャージャー、ワイヤーハーネス、コントロールユニットは有無があり明記されている。欠品部品も明記されている。エンジンを始動し、生産作業手順書の検査項目に添ってテストを行うこと。)

エンジン	ランク1	保証書発行日より12ヶ月間 もしくは走行距離20,000km 以内
	ランク2～3	保証書発行日より6ヶ月間 もしくは走行距離10,000km 以内
	コア・程度8	初期クレームの返品のみで商品回収と赤伝処理

#2 システム開発/改修活動

ソフト/ハード一体での活動

システム委員会で吸い上げた現場の声を踏まえたユーザーからのシステム改善提案を受け、システム改修及び改修後の活用方法教育を実施

ハード面における活動



システム開発



システム改修
/活用指導

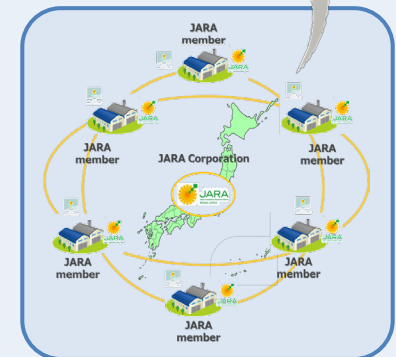
改善提案

ハード・ソフト一体
で活動を推進

ソフト面における活動



システム委員会



現場の声

#3-1 事業環境整備

保証制度導入などによる事業環境整備

業界初の瑕疵保証制度やJARA総合保証制度の導入、消費者への認知拡大活動など、事業環境の整備に向けた活動を多数実施

区分

活動内容

保証制度導入

JARA
あんしん保証



JARA
総合保証制度



認知拡大活動



・2015年に運用を開始した、業界初の瑕疵保証責任制度
⇒JARAグループ会員企業の高品質なリユース・リビルト
部品の更なる普及促進強化を図る

・リユース・リビルト部品事業のリスクを総合的に
補償する企業向け保証制度導入
※財物の損傷・従業員雇用・サイバー攻撃などのリスクを
総合的に補償

・消費者に分かりやすくリユース・リビルト部品について
説明した普及啓発動画の発信
・ホームページ・SNSなどのメディアを活用した広報

#3-2 事業環境整備

ELV調達によるリユース部品の商品数確保



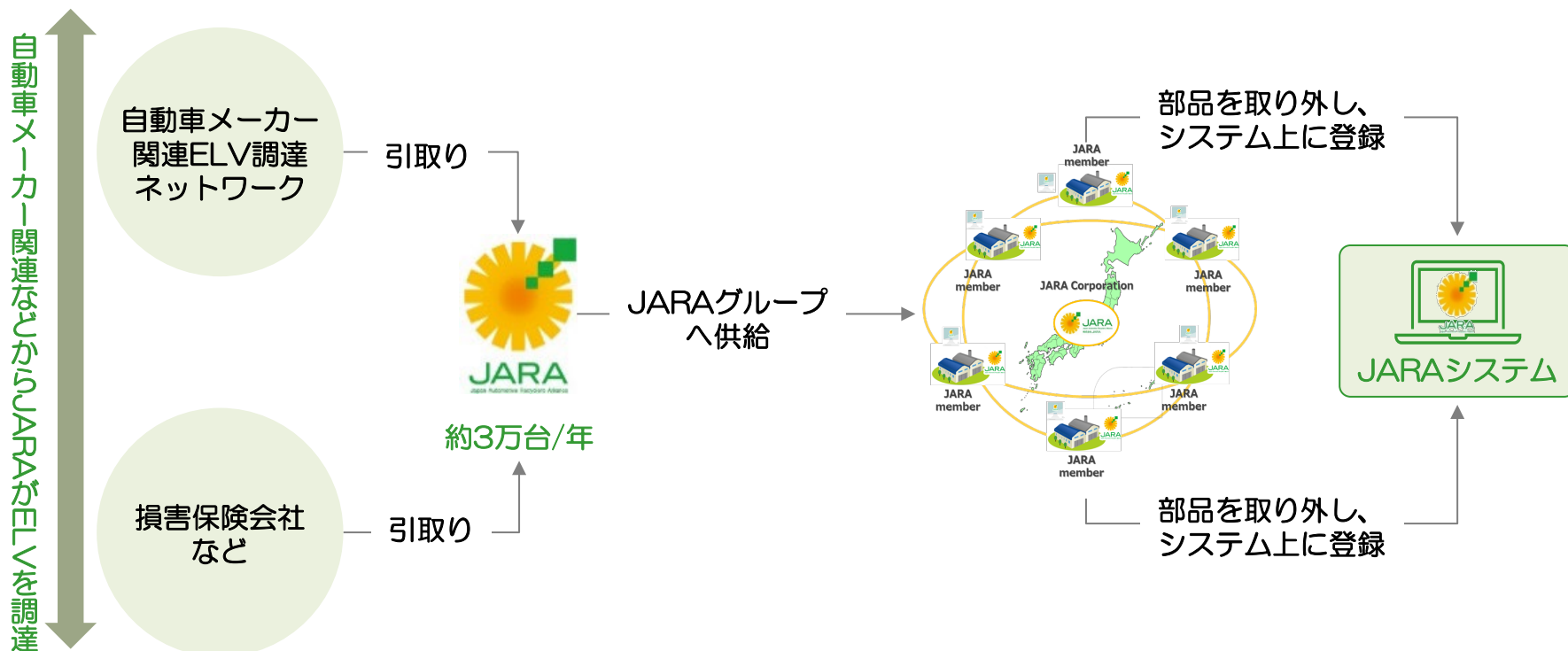
リユース部品の量確保に向けて、JARAが自動車メーカー関連や損害保険会社などから年間約3万台のELVを調達

JARA

会員へのELV供給

JARA
グループ

部品の商品化



本日のご説明内容

1. (株)JARA・(一社)JARAグループについて
2. 自動車リユース・リビルト部品の流通モデルと課題
3. 課題解決に向けた取組
4. 本取組の優位性・環境貢献
5. 将来に向けて

本取組の優位性

▶ 顧客への影響度/業界発展性

個社毎でなく、全国の事業者が、統一基準で教育することで、顧客がどこからでも安心して購入する環境を構築し、リユース部品業界全体の発展に貢献している点

▶ ソフト/ハードが一体化した取組

教育内容が直接システム改修に繋がる仕組みを構築しており、ソフト・ハード両面が相互で連携できている点

▶ バリューチェーンを包括した取組範囲

ELV供給～保証制度の提供にわたる上流～下流までの事業環境整備のみならず、消費者も含むバリューチェーン全体を包括した取組を展開している点

▶ システムシェア

350ユーザー・70万台のELVを管理し、自動車リユース部品販売管理システムとしてトップシェアを誇る点

環境貢献



自動車リサイクル部品の供給で地球温暖化に貢献する

Green Point Club

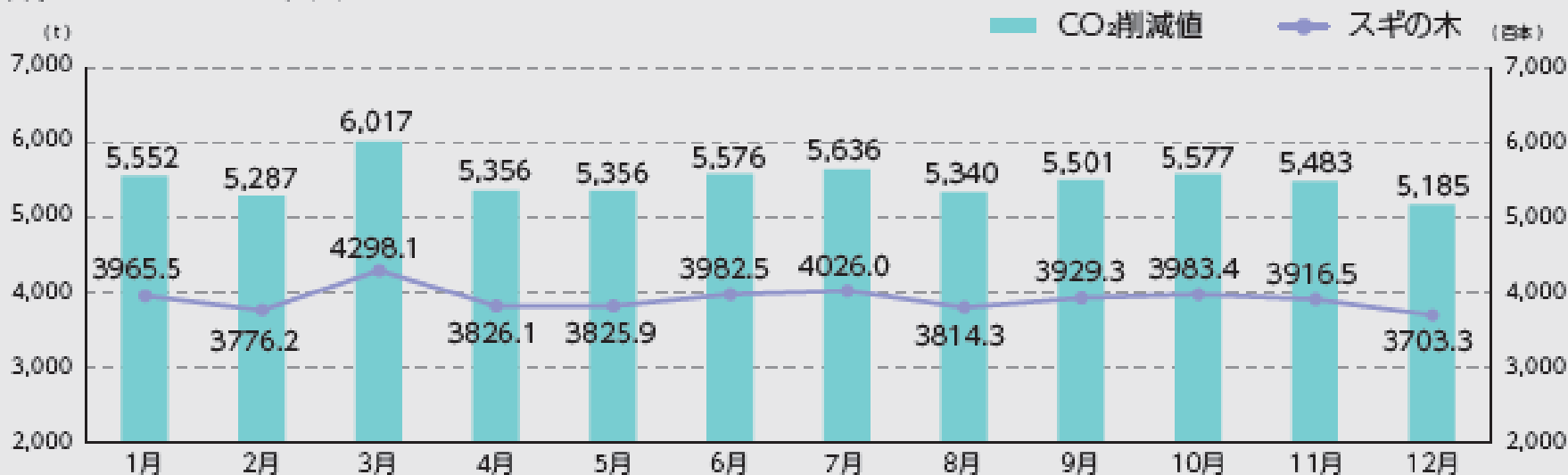
リサイクルエンジン(1500ccクラス) を使用した場合

- CO₂削減効果：261kg
 - 杉の木年間吸収量：18.6本分
- ※1本当たりのCO₂ 吸収量=14kg



中古パーツを使用した際に、新品使用時と比較して削減された二酸化炭素量を数値化し、ユーザーにグリーンポイントを付与する仕組み

(株) JARA 2023年度月別 CO₂削減値



出典：日本自動車リサイクル部品協議会 17

本日のご説明内容

1. (株)JARA・(一社)JARAグループについて
2. 自動車リユース・リビルト部品の流通モデルと課題
3. 課題解決に向けた取組
4. 本取組の優位性・環境貢献
5. 将来に向けて

将来に向けて

既存の取組強化

• 供給ネットワークの拡大

- グループ会員へのさらなる商品供給ネットワークの拡大
- 上記により、消費者に提供できる商品数を拡大すると共に品質の安定化を目指す

• 動脈産業との連携強化

- 動脈産業との技術交流により、高度化する自動車の適正処理・品質検査技術の向上などを図る
- 上記により、確かな品質を担保することで、動脈産業と共にお客様へのリユース部品の認知度向上・信頼度の高い供給体制の構築を図る

新たな取組推進

• 最新技術の活用

- AI/ビッグデータ解析などの最新技術を導入・活用
- 上記により、システム効率化・リサイクル業界全体の活性化を目指す

ご参考資料

国内向け部品と輸出向け部品

国内向け部品



輸出向け部品

